

7 「風土」分科会 要旨

San-En-Nanshin Summit 2016 in Higashimikawa

テーマ「広域連携による歴史・文化・自然資源などの地域資源の新たな価値創造」

コーディネーター	野外教育研究財団	理事長	羽場 瞳美
報告者	浜松市	文化振興担当部長	山下 文彦
コメントーター	静岡県立大学	名誉教授	須田 悅生
行政	浜松市	市長	鈴木 康友
行政	松川町	町長	深津 徹
行政	阿南町	町長	勝野 一成
行政	平谷村	村長	小池 正充
行政	壳木村	村長	清水 秀樹
経済	袋井商工会議所	会頭	豊田 富士雄
経済	飯田商工会議所	会頭	柴田 忠昭
住民	浜松市無形民俗保護団体連絡会事務局	次長	上嶋 裕志
住民	愛知大学総合郷土研究所	研究員	平川 雄一

(敬称略)

■はじめに

コーディネーター／野外教育研究財団

羽場理事長



皆様、こんにちは。すばらしい全体会のお三方の発表を受けまして、これから始めさせていただきます。

それでは、座って進行させていただきます。

本日は、浜松市の鈴木市長様をはじめ、ご

らんのパネリストの皆様をお迎えいたしまして、これから進めさせていただきます。

本日の進行でございますが、前年度のサミットにおける風土分科会の皆様の意見の取りまとめを受けまして、そこからスタートしてまいりたいと思います。

最初に、山下文彦浜松市文化振興担当部長様からご報告をいただきます。

その後に本日の分科会の各ご意見を伺いながら、取りまとめに向かって進めてまいりたいと思います。

この分科会が終わった後には報告会がございまして、皆様の意見集約をそこで発表させていただくということになります。

それでは、山下様、よろしくお願ひいたします。

■ 報告

浜松市 山下文化振興担当部長

改めまして、皆さん、こんにちは。浜松市市民部文化振興担当部長の山下と申します。

私は文化振興担当部長ということで、所管は文化政策、スポーツ、それから博物館、美術館、図書館を担当しております。もちろんこの文化財に関しても私の所管になりますけれども、まず私から民俗文化財の宝庫、三遠南信ということで、まずは浜松市の取り組みを中心に発表させていただきたいと思います。

三遠南信地域でございますけれども、無形民俗文化財の宝庫と呼ばれているところは皆さんご承知のとおりだと思います。

まず、日本の民俗学の黎明期から多くの研究者が注目し、この地域を訪れております。例えば、柳田国男でありますとか折口信夫、それから宮本常一らがこの地を訪れて取材し、全国に紹介しております。また近年では、また新たな注目が高まっているところでございます。

これは、浜松市地域をあらわしたものですけれども、浜松市は平成17年に大型合併をいたしましたが、それで指定文化財の件数が431件、点数でいいますと3,000点を超える全国でもトップクラスの文化財を抱える市となりました。

ここにありますように北区、浜名湖の北側ですけれども182件、それから天竜区、その右上ですけれども、132件、というように三遠南信地域の県境近くにその大半が集中しているところでございます。

浜松市では、この市全体の文化財の中心、旧引佐町の役場のところに来年度、地域遺産センターというものをオープンする予定でございます。

それでは、浜松市の主な民俗文化財をご紹介したいと思います。

遠江のひよんどりとおくない、西浦の田楽は国指定重要無形文化財でございます。三河

地域に多い、花の舞も浜松地域に継承されておりまして、静岡県の文化財に指定されているところでございます。写真は懐山のおくないと川合の花の舞でございます。

また、夏の盆行事も豊富に伝わっております。写真にあります水窪の念仏踊りは、静岡県指定無形民俗文化財でございます。

また、遠州大念仏は保存会が形成されておりまして、60組余を一括して浜松市の指定文化財としております。

また、江戸時代に起源を持つ農村歌舞伎も続いております。横尾歌舞伎でございますが、これは静岡県の指定となっております。

下段ですけれども、雄踏歌舞伎「万人講」と浦川歌舞伎につきましては、1度途絶えてしまいましたけれども、その後、地域の皆さんの熱意で復興し、現在も継承されております。

こちらは東久留米木の万歳楽でございますけれども、これはひよんどりとおくないのうち一部の儀式が継承されているものでございます。

また、雄踏町にございます息神社の田歌祭は田遊びの神事を氏子が復興して引き継いでいるものでございます。

ここまで無形民俗文化財を紹介してきましたけれども、こうした祭礼に使用される道具のうち、仮面に着目してみたいと思います。

三遠南信の祭りでは、仮面が特徴的に用いられてきました。例えば翁の面は、現在の能につながる祖形に当たるのではないかという説が唱えられております。

三遠南信の仮面の集成には飯田市さんが多くの実績がございますけれども、浜松市内にも多くの仮面が伝わっております。

これは、浜松市出身の日本画家秋野不矩画伯でございますけれども、天竜の懐山にありますおくないの面に魅了されて、このようなスケッチを描かれたものでございます。

これは西浦田楽で使用されている面でございます。舞を継承する今のご当代は、この

面をつけると先祖と一緒に舞っているようだと感じられるそうですけれども、大変神聖なものでございます。

天竜区の神社に伝わっている面ですけれども、この面は残っているものの、祭礼そのものは現在に伝わっておりません。市内には、祭礼は伝わらずとも、これらの面や湯立の大釜などが残されている地区がございます。かつてはもっと多くの地域で祭礼が執り行われていたということがわかります。

本日ご臨席の皆さんも、この三遠南信地域に共通する祭りが広がっていることは既にご案内のとおりだと思います。

宮崎駿監督の「千と千尋の神隠し」の例にありますように、無形民俗文化財に対して世界の注目が今や集まっています。こうしたことから、県境を越えた連携に大きなチャンスが訪れていると言えるでしょう。

これから浜松市の取り組みをご紹介したいと思います。

浜松市内では、無形民俗文化財保存団体の皆さんがかつての市町村の境を超えて連携し、それぞれの事情や後継者育成などの展望を話し合う機会を設けております。これが指定の有無にかかわらず、市内の19団体が加盟し、自主的な活動を続けておられます。

三遠南信地域の無形民俗文化財に、関心が集まっております。これは昨年秋に行われたものでありますけれども、中世文学会というものの中では、国内で演じられたセリフの中に古い歌などが伝わっているということに注目しておりました。分野の違う研究者にも、重要な文化財という認識が広がっていると思います。

さて、浜松市では、来年度から新たな文化財保護認定制度を導入する予定でございます。

これは、従来の文化財保護制度とは別に、指定よりも制約の少ない制度として広く市内の文化財を浜松地域遺産ということで認定し、周知を図っていきたいということで考えております。

これはイメージを書いたものですけれども、対象とする種別は有形・無形の民俗文化財も含めて、現在ある指定文化財の種別すべてとする予定です。

認定文化財につきましては、指定文化財の予備軍としての意味を持たせたいと考えております。

日本遺産の話をここでさせていただきたいと思います。

浜松市では、平成27年度から文化庁が新たに開始した日本遺産の認定に向けた取り組みを進めているところでございます。

日本遺産につきましては、単体の文化財ではなく、地域の中で共通するテーマの文化財をつないでストーリーをつくる、新たな見どころを模索、提案していくものでございます。これは、文化財の保護だけでなく、地域振興等の活用にも着目しようという制度でございます。

これは平成27年度に認定された日本遺産でありますけれども、文化庁は、平成32年の東京オリンピック、パラリンピックの年までに全国で100か所の認定を目指しております。

昨年4月には、18か所が認定を受けました。この中には静岡県、愛知県、長野県は入っておりません。

浜松市では、今月でありますけれども、次の認定に向けて岡崎市、静岡市と3市で連携いたしまして、家康公400年祭の枠組みを生かした日本遺産の申請を行ったところでございます。

この三遠南信地域でございますけれども、今まで無形民俗文化財の宝庫というお話しはしましたけれども、世界から注目される歴史遺産として日本遺産の認定の要件を十分に満たしていると言えます。来年度に向けては、三遠南信地域というさらに広域的な枠組みによる無形民俗文化財を日本遺産に申請すべく準備を進めていきたいと考えております。

SENAの分科会を中心にいたしまして、これまでも民俗文化財の活用を検討してきたとこ

ろではございますが、日本遺産に認定されれば、これをきっかけとしてこの地域のPRや活性化をさらに図ることができるものと思われます。このためにも、日本遺産の認定に向けてぜひ皆様方のご協力をよろしくお願いしたいと思います。

発表は以上です。ありがとうございました。



■意見交換

**コーディネーター／野外教育研究財団
羽場理事長**

ありがとうございました。

それでは、議論に入ってまいりたいのですが、その前にちょっと前後いたしましたが、事務局より昨年度の議論の総括をしていただきまして、その上で議論に入ってまいりたいと思います。

それでは、鈴木様、よろしくお願ひいたします。

事務局

それでは、昨年度の議論のおさらい、取りまとめの結果と、本日意見交換いただきたいポイントについて事務局から説明いたします。

昨年度の分科会につきましては、特に地域の特産品や芸能文化などの地域資源の活用がいかにあるべきか、ということで活発なご議論をいただきました。

そのまとめとして3点の結論をいただいたところです。

1点目につきましては、意見交換で出されたアイデアや、それぞれが持つ地域資源を認識し合い、それを体系化し、持続的な観光客誘致に結びつけられるよう情報発信力を高めるというものでございます。

2点目の結論としまして、地域資源の活用に取り組む民間団体との連携を強化することでございます。

結論の3点目は、三遠南信地域の歴史や風土を整理し、それに結びつけたストーリーを持った広域観光の推進による交流人口をふやすというものでございます。

次に、本日のテーマですが、昨年度のサミットの後、地方創生の取り組み等が本格化しているところでございます。特にローカルアベノミクスの実現に向けて、地域経済の活性化と雇用の創出というものが重大テーマとなってございます。

こうした点を踏まえまして、今年度のサミット並びにこちら風土分科会につきましては、地域の多様な地域資源をどのように生かして、地域経済の活性化と雇用創出につなげていくかという点を中心にご議論いただければと思います。

**コーディネーター／野外教育研究財団
羽場理事長**

ありがとうございました。

先ほどの山下様の浜松市の取り組み、大変うなづくというか、啓発されるところがございました。今日の須田先生のすばらしい発表と相まって、それから、今日の全体会の基調講演の中にはそれを具体的にプロセスとしてどのように住民運動等、それから公共がかかわっていくか、そのためにはどういった公的な措置がなされ、予算的な措置がなされていくかということでふんだんに散りばめられた全体会のお話し、そして今の山下様のお話しだったかと思います。

それでは、本年度のそうした前提を踏まえ

た上で、地域の雇用や活力につながっていくような形で議論を進めていって集約ができるようご協力をいただきながら、ご意見をちょうだいしたいと思います。

まず私からお三方にご意見を伺いたいと思います。

その後、オープンにしてさまざまご意見をちょうだいしながらテーマを移していくようにさせていただきたいと思います。

まず阿南町の勝野町長様にご意見をちょうだいしたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

阿南町 勝野町長

阿南町の勝野でございます。

地域資源の可能性でございますが、私としては地域資源、新野の盆踊りに始まりまして雪祭り、そして和合の念仏踊り、そして早稲田の人形芝居といろいろな芸能が私どものまちには多くございまして、地域資源として非常に有効なものだということは感じているわけでありますが、やはり1番今の状態厳しいものは人口減少、過疎化、こういう中では伝統芸能の継承が非常に厳しい状況に陥っている。これをどう打開していくか。いろいろな手を尽くしては来ているわけですが、簡単な話ではありません。

そういう中では、高齢化も手伝い、後を引き継ぐものがなかなかいなくなってきた祭りもあって、非常に今、危惧しているのが現状でございます。

こうした厳しい状況の中、さらにこうした祭りを地域の観光だと、産業にどう結びつけていくのか、これもまた時期的にいろいろございまして、また日も短い中で、やはりどういう形に結びつけて広げていけるのか、これもまた頭の痛い話であります。

いずれにしましても、1番今危惧しているのは継承、この問題に直面しているのが実態でございます。

コーディネーター／野外教育研究財団

羽場理事長

ありがとうございました。

平谷村の小池村長さん、お願ひいたします。

平谷村 小池村長

ただいま紹介されました長野県平谷村の小池でございます。

平谷村は、今、先生の風土という講演のあったような伝統的な民俗芸能はほとんど皆無といっていいほどの村でございます。

そんな中で平谷村は、以前は林業、特に木炭・木材を主として生計を立てていたような村でございます。その中で生活様式の変更やらで、農業にも携わってきたわけでございますが、非常に標高が高い村でございます。農業だけでは1年生計を立てていけないということで、最近では観光事業を取り入れる中で、周りの遠州、三河、中京のほうからのお客さんを目当てに観光事業を多々始めたわけでございます。

そんな中で、地形を生かし、また高齢化で年寄りばかりの村の労働力を生かす中で高原野菜の栽培を普及しながら、生計を立てていく村として歩んで来たわけでございます。

その後には、国道の直轄化ということで、建設省で道の駅の計画の中に入れてくださいまして、今、道の駅を中心に高原野菜の販売、または料理等の体験をしてもらう中で、非常に人口の少ない村ではございますが、にぎわっているのが現状でございます。

現在の村の人口は480人ぐらいで、全国でも少ないほうから数えると5本の指に入るくらいの村でございますが、村自体は道の駅を中心、また観光事業中心ということで非常ににぎわっております。

スキー場もございますので、冬は今スキー場が非常ににぎわっていますが、今年は暖冬の影響で苦勞はしていますけれども、スキーはできております。

そんなことで、平谷村は観光一辺倒で頑張っている村でございます。ありがとうございました。

**コーディネーター／野外教育研究財団
羽場理事長**

ありがとうございました。

若干私事も含めて申し上げますと、実は私、温泉で有名な阿智村におりますが、平谷のモデルというのは本当にすばらしい成功を納められまして、私どもは逆に指を加えて呆然と眺めているというようなことでござります。

それでは、浜松市の無形民俗保護団体の連絡会の事務局次長上嶋様、民間の立場からご意見をちょうだいしたいと思います。

無形民俗保護団体連絡会事務局 上嶋次長

上嶋と申します。よろしくお願ひします。

無形民俗保護団体連絡会が市長の名のもとに立ち上りました。その以前には、先ほど皆様にもお配りした「ひよんどりとおくないの連絡協議会」立ち上げました。立ち上げたきっかけは活動が、いろいろな地域の無形民俗文化財でつながりを持ってポスターを含め浜松市全体にPRしていくと6団体で活動しています。

活動をもとに祀りに訪れた方がどのような舞をやっているのか分かるようにガイドブックも作っています。

皆さんも、いろいろな民俗芸能を見に行つたときに、この舞は何のためにやっているのだろうというのはほとんどわからなくて見ているのではないかと思います。実はそれを紐解いていくと、その舞にも意味深い物語があるということがわかってきますので、そういう見方も大切です。

そこで、浜松市では、私たちが初めにスタートした「ひよんどりとおくないの連絡協議会」から今度はワンステップ上がりまして、19団体の形でこの「無形民俗文化財の保護団

体連絡会」という形でスタートしまして、これも今、皆さんにお渡した年に2回広報紙を発行しております。

この広報紙は今、浜松市の中にこんなたくさんいろいろな芸能があるのだということを知ってもらうためにも、出しているのですが、これによってお互いの芸能を含め交流ができるようになりました。この芸能の保護団体連絡会はうまく機能しているのではないかと思います。

今回、提案なのですけれども、浜松市はこの19団体がどうにかまとまりました。南信州のほうも今、まとまっています。

前回も飯田市の美術博物館の桜井さんを中心に遠州に視察に来られ、さきほど阿南町の町長が言われたように継承の仕方を視察されました。私たちは、保護団体連絡会をつくって、こういうこともやっていますよと、お互いに継承も含めたことを見ていこうということでやっておりますので、それらを含めて、これからどんな形で継承をしていくか、いろいろな課題がありますが、時間が来ましたので、とりあえずここでマイクを置きます。

**コーディネーター／野外教育研究財団
羽場理事長**

ありがとうございました。

だんだん方向性が見えてきたような気がいたします。阿南町では、すばらしい文化財を持っているのですが、継承が問題であるというお話と、それから今、上嶋様から、もう既に一手を打ちましたという話がありました。三遠南信も後継者難で本当に苦しんでおります。小中学生を巻き込んだ動きが今起きつつありますね。

もう少しこのことについて、地域資源の可能性についてご意見を伺いたいと思います。どちら様でも挙手の上お願いしたいと思います。市長、お願ひします。

浜松市 鈴木市長

今、浜松では、無形民俗保護団体連絡会を作っていましたが、やはり12市町村が合併をして行政の境がなくなったというのが大きいと思います。

全体で後継者の育成などもやっていくべきだと思っています。自治体の文化財の保護は文化財課でいいですが、後継者の育成は教育委員会がやるということです。教育委員会を担当にして、学校との連携とか地域との連携を図るということです。

教育委員会が責任を持ってやるということになると、今度は自分のことになりますから、これはやらざるを得なくなります。小さな枠組みで後継者をどうしようかとなるとなかなか難しいので、できれば三遠南信として連絡協議会を広げていき、三遠南信の中で後継者の育成をどうしていくかということを考えていけば良いわけです。広い地域から継承者、子どもたちとか、そういう人たちを育成していくけばいいので、そういう意味で連携してやっていくということが大事だなと思っています。

コーディネーター／野外教育研究財団

羽場理事長

ありがとうございます。

鈴木市長さんから非常に力強いご意見を伺ったわけですが、ご存じのとおり社会教育部門も今ダイレクトに首長部局が大いに関与することができますので、これは可能性のあるところではないかと思うのですが、深津町長さん、いかがでしょうか。

松川町 深津町長

松川町、私どものまちには全国的に知られるような文化を伝承する祭り等はないのですけれども、当然のことながら地域の中には多くの神社があって、春夏それぞれ保存会があって、お祭りが盛大に行われております。

それで1つの見方として、こうした文化伝統を守って伝承をしていくとともに、それが地域の活性化、地域の創生だという見方をしていきますと、私の近所にある神社がそうなのですけれども、私たちが子どものころはとても盛んで、それからずっと一時下火になりました。それで今の祭りは、今話題になっておりますように、子どもたちの育成会が協力し、子どもたちが春秋につくったサツマイモを焼き芋で神社の境内で売ったり、公民館、地域の公民館が一緒になって神社の祭りを盛り上げたり、神社のほうは、1月2日の初売りの日には、小獅子を出して商店街を練り歩いてお店を回るというような、いわゆる文化の伝承だけではなくて、地域を巻き込んだ中でやっていくことが、今度は私の立場からすると、地域の活力、地域の活性化につながっていって、そういういたぐらが違うことにも活躍をしだすことが大事かなと思います。ちょっと見方を変えると、そんな気がいたします。

コーディネーター／野外教育研究財団

羽場理事長

ありがとうございました。

須田先生のお話しの中に、政府が禁止令を出しても神様のためだということで、神様を抱き込み文化を守り、かつ、それによって地域が元気になっていくというお話がありました。まさにお2人の首長さんがおっしゃることは、そういうところを1つの縦割り行政で考えていくのではなくて横につながっていくことによって新たな局面を打ち出していけるのではないか。その中でSENAが果たす役割があるのではないかということを町長さんがおっしゃったのかなと思います。

柴田会頭様、今日は飯田市の行政の方がお出でになりませんが、飯田市ではどのような取り組みをなさっているのでしょうか。まさに民俗文化財の宝庫飯田市の後継者問題、お

練りも近いですし、それから花祭りも本当に後継者で悩んでおりますが、いかがでしょうか。

飯田商工会議所 柴田会頭

飯田市の柴田です。よろしくお願ひします。

飯田市が人口減少、高齢化ということに対しているいろいろやっていることが、浜松市や豊橋市と特段違ったことをやっているとは思っていません。

ただ、大きな流れの中で、減ることについてはある程度受けとめて、飯田の地方には三遠南信自動車道、リニアという大きなプロジェクトがありますので、その大きなプロジェクトの完成をめがけて、その減少に歯止めを掛ける取り組みをしていかなくてはいけないと思っております。

先ほどの徳島の例が発表になりましたが、非常におもしろい取り組みだと感じました。飯田市にとってもヒントになるところがたくさんありましたので、市長にも提言ができるいいなと思って聞いておりました。

コーディネーター／野外教育研究財団

羽場理事長

はい、ありがとうございました。まだまだこの問題について掘り下げたいところでございますが、先ほど浜松市長さんから、いわゆる連携について言及がございましたので、次はその連携に向けて入っていきたいと思います。

論点に地域間連携。これは浜松市長さんのサゼッションですと、地域にとどまらず、さまざまな横縦の連携も含んでいるのかなという感じがいたします。

それでは、まず売木村の清水村長さんからご意見をちょうだいしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

売木村 清水村長

こんにちは。売木村の村長の清水と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

売木村に文化芸能という面でいいますと、やはり国道151号、また国道153号から少し、売木村はその街道沿いでないということがあって、伝統的な大きな祭りというのではないわけですが、その中で愛知県の隣であります豊根村のほうからお練り祭りをもとに売木村でも明治25年に太田稻荷神社の本殿の建立を契機に神主、笛方、神楽、五色旗、花とか太鼓とかそういうものを取り入れたお練り祭りというものを始めて今に至っております。

先ほども出ておりますように、非常に後継者が少なくなってきた中で、学校の授業としてそれを取り入れて、お練りの伝承をしているというようなことになってきております。

これも非常に小さな村で、そういう伝統文化を残していくということは非常に厳しいわけでありますけど、何とかそういう子どもたちにも連携というか、一緒に協力してもらって残していきたいなという思いであります。

売木村は山村留学という制度があって、ことして33年目になります。都会から子どもたちが来ているわけでありますが、その子どもたちにもお練りに参加していただくことをして、また、その中で都会から来た子どもたちにもそういう文化を伝承しておいて、いつかまた思い出してくださいて、売木へ来て踊っていただければありがたいなと思っております。

そんな中で、売木村は8月に盆踊りがありますけど、その盆踊りの8月15日に平成10年から交流している湖西市の手筒花火保存会の皆さんに来ていただいて、売木村で手筒花火をやってもらうことで、平成10年からありますので定着してきました、それを目当てに観光客の皆さんのが盆踊りに参加して、そして手筒花火を見て帰るというようなこともずっと

続いてきておりますので、それも大きな連携かなと思っております。

**コーディネーター／野外教育研究財団
羽場理事長**

ありがとうございました。

それでは、続いでございますが、飯田商工会議所の柴田会頭さん、地域間連携に関連したお話しをお願いいたします。

飯田商工会議所 柴田会頭

まず、この分科会の始まるときに浜松市の山下文化振興担当部長さんからのお話しがありました。この画面を見ていると浜松市の北区で182という1番たくさん文化財がありました。その北の天竜区には132にあります。さらに地続き、で南信濃へと続いていくと、その文化財の宝庫が須田先生のお話で最後に地図の点がありましたけれども、これを見ると実は秋葉街道であるとか、いわゆる塩の道ですね。それから天竜川水系、これが実は伝統文化を育む素地になった地域一帯だと感じました。

そういうことの中で、我々が三遠南信、三遠南信と言い続けているわけですけれども、この地域が、行政区が違っても、250万経済圏域として同じ方向で頑張って進んでいこうと、今の流行り言葉で言うと地方創生なのですが、そういう言葉を含めていろいろなことを一体となって考えていこうというその考え方はある意味必然だったのかなという気がいたします。

そういうことの中で、午前中に行われました三遠南信の会議の中でお練りまつりの紹介をさせていただきました。これは来月の25日、26日、27日、3月に7年に1回行われます飯田地方の最大のお祭りです。このお祭りは諏訪大社から、上から下へおりてきた、お祭りでありまして、民俗芸能文化という是有る意味下から上がっていた文化のかなという思い

もしております。

そういうことの中で、この三遠南信の取り組みにつきましては、三遠南信「街道浪漫」クイズラリーというのを、3年ほど前にやりました。あれは、全国的にほかでもやっているところがあって、目新しいものではなかったというようなお話しも反省であったのですが、今日のいろいろなお話しを聞く中でこの伝統文化、伝統文化財を素材にもう1回、題名は同じでもいいから、全部内容を変えて地域の人たちだけじゃなくて、日本の人たちみんなにクイズを解く楽しい旅に出ていただいて、この地域の三遠南信の伝統文化、それから地域経済の発展につなげていっていただけたら非常におもしろいのではないかと思っております。

そういうことの中で、最近飯田線という電車の効用に対する再発見、再見直し、が言われるようになりました。

実はつい3日、4日前の中日新聞の下のほうに大きく「飯田線の秘境駅を8,000余円で1日旅しませんか」というような大きな広告が出ておりましたけれども、あれも三遠南信の道路とJRの鉄道とをつないで、さらにこの地域の発展につなげていただけたらいいのではないかと思いました。

コーディネーター／野外教育研究財団

羽場理事長

会場からも「そうだ」という声がかかっておりますが、おそらく皆さんもこのことはあれにつながる、こういうのがあるはずだということがきっとおありになろうかと思いますので、後ほど会場の皆さんにも後々少し聞かせていただきたいなと思っております。

愛知大学の平川先生、いかがでしょうか。

愛知大学総合郷土研究所 平川研究員

平川です。私は毎回ここに出させてもらうときに紹介させていただくのですが、住民団

体の1人として参加させていただいている。住民団体というのは、三遠南信住民ネットワーク協議会という協議会を2012年6月1日に立ち上げまして、現在4年目となります。そのメンバーの代表としてこの風土分科会では私と隣にいます上嶋さんが発言いたします。

実は、分科会に先立ちまして、午前中に住民セッションを開催しました。この中で4つの分科会に選ばれた8名がどんなことを発言するかについて、その内容を発表し、参加者のみなさんと討議してきました。その結果を踏まえて他の分科会でも発言しようということになっています。

昨年度から三遠南信住民ネットワーク協議会では、「祭り街道連携プロジェクト」を立ち上げまして、国道151号や153号、257号などの道沿いに点在する無形民俗文化財をはじめとする祭りに焦点をあて、それらを点で見るのではなくて、点と点をつないで面でとらえ、住民団体として情報発信やPRすることを積極的に行っていこうということになりました。

この取り組みは、数多くある後継者不足の問題で悩む保存団体ともかかわりを持って何とか伝統芸能の保存・伝承をお手伝いできなかといつたことも含まれています。

そういった中で2015年6月に、日本遺産の登録を三遠南信の伝統芸能で目指すという新聞記事が長野県、愛知県、それから静岡県の中日新聞に大きく取り上げられたのは記憶に新しいと思います。浜松市は10年前に広域市町村合併以降、伝統芸能が継承されている中山間地域の旧市町村と一体となって、市として伝承活動の支援等を行う音頭を取り始めたと考えています。

それから、先ほどの報告にも出ましたが、南信州では去年2015年7月1日に長野県下伊那地方事務所を中心とした「南信州民俗芸能継承推進協議会」が立ち上がりました。

あとは、東三河がどういう動きになるのか気になるところです。この辺については行政

だけではなくて経済界と住民団体が一体となって積極的に連携して取り組んでいくことができればと私は考えています。

コーディネーター／野外教育研究財団 羽場理事長

はい、ありがとうございました。

最初に地域資源について、その可能性についてお話をいただきました。2つ目としては、地域間連携ということで、今お話をいただいているわけでございます。

そういう意味で、今日のメインの発表をいただいた浜松市ではそれを経済にどのように生かすかという視点も置いていただきながら、市長さんのお考え、それから実際の展開等についてお聞かせいただければと思いますが。

浜松市 鈴木市長

日本遺産の話になってしまいますが、三遠南信連携の中でこの無形民俗芸能がこれだけ集まったのはすごいと常々思っていました。4、5年前に、文化庁の文化審議会の委員を務めたことがあります、その時に地元の紹介ということでその話をしましたら、委員の先生が、せきを切ったように私の代わりに三遠南信の民俗芸能がいかにすばらしいかということを紹介していただき、三遠南信の連携の事業で活用しない手はないなとずっと思っていました。そこに日本遺産というまさにうってつけの制度ができたわけです。

これは、単体の地域ではダメで、地域間の連携があり、しかもそこにストーリーがなければいけないというのです。日本遺産の1つの要件になっていて、三遠南信の民俗芸能を世に売り出すものすごくいいチャンスだと思っていまして、行政に登録することによって、三遠南信全体がこの大事な伝統芸能というものの継承を一緒になって取り組んでいくということです。

今日、神山町のお話しがありましたが、こ

れを今度1つ材料として、例えば伝統芸能というのは今非常に注目されていますので、農家民泊をあわせて、観光客にどんどん来てもらいたいと思います。

農家民泊ということでいえば、南信州観光公社という全国にとどろいたプロ中のプロがいるわけです。そういう皆さんのお力を借りて、この伝統芸能と、例えば農家民泊をあわせて観光客誘致、そこから農家レストランができていったり、あるいは企業誘致、あるいは移住者を引っ張ってきたりする。神山町は最初芸術家の招請から始まってプラスにどんどん進化させていったわけです。我々このすばらしい民俗芸能という財産がありますから、これを使い、いろいろな観光振興、あるいは産業振興、あるいは定住人口、交流人口の拡大にいろいろ進化させていけるのではないかと思うか。神山町の話を聞きながらぜひSENAでやっていきたいと思っています。

コーディネーター／野外教育研究財団 羽場理事長

ありがとうございました。まだまだ時間があります。

会場の中に、後継者育成を他地区とも連携しておやりになっているところ、あるいは知っているよというような方がお出でになりましたら、手を挙げてご紹介いただけたらと思うのですが、いかがでしょう。

傍聴者

三社団子ですか。非常に歴史が残っています。毎年東京に呼ばれて、ひょっこり踊りとか、それをそのまま向こうに伝えに去年も行きました。

コーディネーター／野外教育研究財団 羽場理事長

ありがとうございました。すばらしい活動ですね。

傍聴者

あとは長野県の木島平の木島太鼓ですが、あれは浜松市のヤマハの社員さんが向こうへ帰って普及しました。また、木島村の副村長さんがうちのまちの手筒花火のグループのところへ来て、伝授してくれということで持って帰りたいということもありました。

コーディネーター／野外教育研究財団 羽場理事長

ありがとうございました。

この域内はもちろんですが、域を飛び越えて、よその地区も引きつけていくということが後継者育成からさらに消費を地域にもたらしてくれる、あるいは後継者育成のシステムを中でもつくっていくきっかけになっていくのではないかと感じるところでございます。

会場にお聞きしたいと思います。どうぞ。

川名のひよんどり保存会 前島会長

私、国指定の重要無形民俗文化財「川名のひよんどりの保存会」の会長の前島と申します。

先ほどから話が出ています浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会の会長もいたしております。

3年前に私どもも人材が不足しまして、その時に浜松山里いきいき応援隊という浜松市から派遣されて来た東京の女の子がお見えになりました、お祭りの前に「会長さん、私も参加させてくれ」というお話をいただきました。

実は、600年の歴史がございまして、その間女人禁制でやってまいりましたので、返事をしたはいいもののどうしようかなと考えました。練習が終わって、それでなあと思って眠れなかったものですから、薬師如来様、それは600年前に奉納されたのですが、そこまで夜の12時に行きまして、薬師様、女人禁制だということですが、私の顔を立ててどうで

しょうかとお祈りを申し上げました。2分、3分析っている間に、「その件については、いいんじゃないかな」というような薬師様のお言葉を聞いたような声がいたしまして、初めて600年の歴史を破って女性の方に奉納の舞をしました。そしたら、それが大変好評で、川名、私は川名というところですが、新聞にも取り上げていただきまして、それから女性なども見学に来ていただくということがございます。

来年からは若者も、小学生もほとんどいなくなりますので、これからそれを糧にして、地域の方、浜松市全体の方でもいいですが、どうかご協力をいただきたいと考えている次第でございます。ありがとうございます。

**コーディネーター／野外教育研究財団
羽場理事長**

ありがとうございました。

600年の時空を超えてお許しのお告げをいただいたということで、まことにめでたいことかと思います。

ほかに何かそのような例とか、あるいはご意見等ございましたら、ぜひお声を聞かせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

無形民俗保護団体連絡会事務局 上嶋次長

継承していく中で、先ほどのなかなか難しい部分もありますけれども、今、民俗芸能のお祭りをやるときには内外から大勢の人が来ます。ところが、やっている住民は継承人不足という中でやっているというのが現状なのですけれども、外からのファンがいっぱいいます。写真を撮る人も大分おりますけれども、ただ、このお祭りが僕はすごく好きだという人が何人かやっぱりいるのです。

その中で、それだけ好きだったら、このお祭りの神事と芸能という部分があるけれども、神事は地元の人たちにやってもらって、芸能の部分はあなたがもし1週間こっちに来られ

れば教えてあげるよと言いました。その時に、農家で民泊をしてもらって、地元の人たちと夜中までしゃべり込んで舞を習い当日を迎える、というようなシステムをつくることによって、民泊ができるようなもの、それで地元の人たちと交流しながらつなげていくというやり方をしていけばいいと思っています。文化庁の継承事業などの予算があれば、民俗芸能の伝承事業ということで、日本中で、お祭りの中でこれだけは僕は大好きだという人たちを迎え入れるということも、いい手ではないかなと思っています。

**コーディネーター／野外教育研究財団
羽場理事長**

市長さん、いかがですか。

浜松市 鈴木市長

遠くから来てもらう必要はないので、例えば浜松は12市町村が合併したわけです。それまでは行政という壁がありましたが、壁がなくなって、物理的な、心理的な距離感というのが同じ浜松市内ですからものすごく縮まっています。

そのエリアだけで見れば子どもたちが少なくなっているかもしれないけれども、浜松という枠で見れば、子どもたちはたくさんいますので、まちの子どもたちが中山間地域との交流をすることによって、伝統芸能の継承者になってしまってもいいのではないかと思っています。今、浜松の中のまちと中山間地域の交流事業というのを一生懸命やっています。そういう中から興味関心を持った子どもたちが継承者になってくれて、大事な伝統芸能を継承してもらえばいいと思うわけです。そういうことをやっていきたいです。

もちろん非常に遠くから来てもらってもいいのですが、まず近いところにいるのですから、三遠南信という枠組みで見た時、三遠南信の中でそういう同じようなことをやって

いけばいいのです。浜松のエリアだけだと大変だけれども、隣に豊橋市があり、豊橋市には子どもたちがたくさんいるから、子どもたちに継承してもらおうとか、いろいろなことが可能になってくると思います。そんなことができたらいいなと思っています。

**コーディネーター／野外教育研究財団
羽場理事長**

次の話の地域間連携というところに絞りながら1つお尋ねしたいのですが、大変有名な例として、地域間連携として、飯田市と県境を奪い合うという大イベントを行っておりますが、これについてご紹介とお考えをお聞かせください。

浜松市 鈴木市長

浜松市と飯田市ですが、当時、水窪町と南信濃村、ちょうど県境を境にした2つの町と村の商工会の青年たちが取り組みをしようではないかと始まったものです。本当に1本のロープがつなぐべきなですが、いま全国的にも有名なイベントになっています。静岡県と長野県の県境、山の頂上付近で綱引きをして陣地の取り合いをやるという、それだけのイベントですが、大変に盛り上がっています。勝ったほうは1メートル陣地を浸食していく。浜松市が今3メートルぐらい負けています。去年、サントリーの地域文化賞の表彰も受けまして、今、地域と地域をつなぐいいイベントになっていると思います。

**コーディネーター／野外教育研究財団
羽場理事長**

ありがとうございます。

今日は発表時間を皆さまお守りくださいましたので、まだ時間があります。もう少し この問題についてお聞きしたいと思うのですが、さらに意見、あるいは報告等ございませんでしょうか。

では、平川先生お願ひいたします。

愛知大学綜合郷土研究所 平川研究員

先ほどの祭りの他地域からの連携という話がありましたが、私の知っている範囲でご紹介させていただきますと、東栄町にある花祭りがそうです。この会場に東栄町の方が来ていらっしゃれば、その方から本当は説明していただいたほうがいいのですけれども、東栄町の御園花祭保存会の指導を受けて1993年から「東京花祭り」という名称で開催しています。場所は東京・東久留米市で毎年12月の第2土曜日に昼間から夜までの間で行われています。

東久留米市の小学生たち有志を中心に年に数回御園地区を訪れて講習を受け花祭りの伝承を目的に交流活動を20年以上やられており、地元では有名な話です。そういったことが1つの事例としてあるのではないかと思っております。

**コーディネーター／野外教育研究財団
羽場理事長**

ありがとうございました。

パネリストの先生方地域連携について、どうでしょうか。この次は少しずつ経済的な問題まで含んでいきたいと思いますので、では豊田様。

袋井商工会議所 豊田会頭

静岡県の袋井からまいりました。三遠南信の二等辺三角形の右下の部分ですね。

私どもは連携ということを提案しにまいったわけでございます。

先ほど内容のご紹介ございましたけれども、歴史風土を掘り起こして交流に結びつけていくということで、三遠南信のもう1つの財産として花火文化の発祥地ということは間違いないことでございます。ご当地、ここですね。1588年、手筒花火、それが発祥だと言わ

れでていたり、昨年、浜松市の家康くんがグランプリを取ったわけですが、徳川家康が駿府城で手筒花火をご高覧になったというのが始まりという2説あるのですが、どちらにしてもこの遠州は、歴史文化の中の文化として花火文化の発祥地であるということは確かなことで、家康がその鉄砲隊をずっと温存するために花火の取扱いは直轄で持たせていたという歴史です。

お手元にございます、この資料の3枚目に地図が載っておりますが、豊橋からずっと伊那谷を上がって、飯田のほうに向かっていきます。また私どもは東のほうでございますが、浜松を過ぎて、磐田を過ぎて、袋井ということです。

私ども、約100年の歴史がございまして、ご当地、豊橋も、これは何と市制25周年のときの花火大会のグランプリを私どものまちの花火屋さんが取ったという歴史があるのですけれども、最近では音楽も入れまして、約40万人の人人が集まって、毎年8月にやっております。

先ほどのセミナーで資料が、経済研究所が出まして、見てびっくりしましたけれども、管内の観光入込客数ナンバー1は何といつても浜松市1,750万人、第2位が豊川で750万人、豊川稲荷、第3番目が蒲郡、670万人で、第4位が我が袋井市で445万人ございます。これも威張っていいのか嘆いていいのかわからないのですが、445万人も来ているのに泊まる施設が足りなくて非常に困っております。

そういうことで、実は2003年、2巡目の国体を我がエコパでやったときに、全選手と役員全部を民泊で泊めました。これは歴史に残ることだと思いますけど、それが今ごろになって生きてきておりまして、今後の花火大会においても泊まるところを言ったような民泊を含めて検討しているところでございます。

連携ということに絡んで言いますと、ご提案でございますが、花火文化がずっと飯田の

ほうにもございますし、アルプス工業とか、それから三遠煙火さんとかございます。その花火師さんたちも優秀な方々が残っておられますので、簡単に言いますと仮称花火サミットみたいなものをご提案させていただきたいと思っております。

コーディネーター／野外教育研究財団 羽場理事長

待ってましたと申し上げたいところでございます。阿智村も合併いたした次第で、浜松市のような大きな合併ではなかったのですけれども、花火の技術を東海地方から江戸時代にちょうどいいたしまして、時をかけた長い連携をさせていただき、長野オリンピックのエンディングでかのパフォーマンスを世界に向けて発信させていただきました。

飯田、下伊那の交流人口はまことに残念ながら桁が1つ小さいわけでございますが、柴田会頭様、飯田、下伊那の観光、連携はいかがでしょうか。

飯田商工会議所 柴田会頭

10日ぐらい前、袋井さんから私ども商工会議所に別件ですけれども、お尋ねいただきまして、お話をいたしました。

今、袋井の会頭さんのほうから花火を核につながりを持つような何か企画をというご提案がありました。これは、すばらしいことで、いただきました資料にもたまたまアルプス煙火工業と書いてありますけれども、これは飯田に2つ大きな花火屋さんがありますが、そのうちの1つであります、日本中に花火をつくるお仕事をされているのですけれども、そのメッカみたいな形で、この三遠南信、地域は一緒になって何かをする必然があったのだなという気がいたして聞いておりました。ぜひ進めていただきたいと思います。

コーディネーター／野外教育研究財団

羽場理事長

ありがとうございました。

それでは、次の話題に移ってまいりたいと思います。

地域資源、これをお話しいただき、次に連携をどうしていこうかということでございました。だんだん話が煮詰まってきて、では具体的にどのようなことを地域と充実、あるいは経済に向けて、あるいは教育文化の活性に向けてやっていくべきかということが焦点化されてまいります。

まず、松川町の深津町長様、よろしくお願いします。

松川町 深津町長

私どもの松川町でございますけれども、ちょうど長野県の南信の飯田市と駒ヶ根市さんの中間にあたる位置にございます。

地域資源ということでは、私どものまちは、くだものの里として情報発信に取り組んでおります。昨年は、ちょうど果物栽培が始まつてからちょうど百周年ということでございまして、1年を投じまして、さまざまな事業の取り組みをしてまいりました。

私どものまちは、サクランボから始まりまして、ブルーベリー、ブルーン、食用ホウズキ、モモ、ナシ、リンゴと年間を通じて、果物の里としてブランドイメージを発信しているところでございます。

また、直営の温泉施設がございまして、清流苑という温泉でございますけれども、一帯の森林地帯を非常に活用してスポーツ施設、温水プール、それから周辺の森林を活用して森林セラピー基地の認定も受けております。また、アウトドアスポーツということでフォレスタードベンチャーということで共有林を高い、地上から10メートル余りを渡り歩くような施設をつくりまして、着地型の観光を目指していきたいという大きな目標を持ってお

ります。

そのためにボランティアの地域案内人の皆さんのが今10名程度、3年目になりますけれども、地域案内人講座を設けて、その方たちが活動をしていていただきます。

また、支援隊員に協力隊の1名が旅行業者の免許をつい先日取りました。そうしますと地域発、地域型の着地型の観光を目指していくと考えております。

また、地域の皆さんのがワイン特区をぜひということで、リンゴのワイン、シードルをつくりまして、5件の農家の皆さんのがまとまりまして、南信州ワイン松川振興会というのを立ち上げ、ワイン特区を今申請いたしました。間もなく特区が取れる予定になっております。また、まちの新たな魅力として発信していくと思っております。

当然、リンゴ狩り、果物狩りは中京圏が多いわけでございまして、名古屋、それから静岡方面からも大勢の皆さんのがおいでになるという意味では、三遠南信自動車道等に大きく期待をするところでございます。

しかしながら、大きな観光ということでいきますと、やっぱり先ほどから出ます地域間連携をしていかなければ、所詮パイが小さいです。それで、いかにして連携をしていくかということが大事ではないかなと思っております。

それから、最後にもう1点だけ、皆さんの文化芸能、祭りということをお聞きしていて、そうしたものでお客さんを呼んで来るには、どうしても祭りというのは単発ではないかという気がしていました。1年間通してやっているわけではないので、どういうふうに連携をして、そして、その単発である文化芸能というのをどういうふうに普段の中でアピールしていくかという考え方をしていかないと、どうしても単発になってしまふのかな、連携という意味ではそんなことを感じました。

**コーディネーター／野外教育研究財団
羽場理事長**

ありがとうございました。大変大事な視点をご指摘いただきました。

いくらすばらしいものが山のようになつても、いつ、どこに、どうあるのかと、どこへ行つたらいいのでしょうか、だれがコーディネートするのでしょうか。こういうことでございますね。その辺に向けて恐らく皆さんもお考えになっているかと思います。

袋井市の豊田会頭様、よろしくお願ひいたします。

袋井市商工会議所 豊田会頭

花火、先ほど触れさせていただきましたけれども、祭り全体としては、我が袋井市は東海道53次の真ん中、27番目なのですが、人口当たりの屋台の数が日本一なのです。人口8万7,000人のまちですけれども、屋台の数が日本一多いというのは、いかに、わいわいすることが好きだという民度ですね。

**コーディネーター／野外教育研究財団
羽場理事長**

京都や博多よりも多いですか。

袋井市商工会議所 豊田富士雄会頭

多いです。それはある人が調べました。

**コーディネーター／野外教育研究財団
羽場理事長**

おみそれいたしました。

袋井市商工会議所 豊田会頭

少し近接しているまちがあるみたいでしけれども、大体間違いないと思います。

それでですね、先ほどのセミナーも拝見していてふと思ったのですが、6,000億円かけて131億円ということでしたね。ハードで6,000億円で131億円のアウトプット。それに考えて

みますと、花火というのは実は今回、昨年の花火を浜松信用金庫のシンクタンクで経済効果を調査したところ、6億円ぐらいです。ただ、これは桁違いに数字が悪い。諏訪湖の花火とかは大体30億円ぐらいです。

花火というのは非常にお金が落ちるイベントだということを申し上げたくて言っているわけで、三遠南信自動車道が開通して、いろいろな観光客を呼んでくる、お金を落としてもらうというのですけど、花火というのは非常に経済効果が上がります。どっかとかいうとのんびりしている袋井のほうでして、諏訪の花火でも、長岡の花火が日本一ですかね、大曲もそうです。袋井と豊橋と飯田の花火の1シーズンの通し券をつくって、子どもさんたちもこっちの花火見たら信州へ行って木陰で涼んでですね、いろいろな文化の勉強をしながら花火を見て帰ってくるというようなことも、私どもにも旅行業の資格を取った社員がおりまして、せっかく市が着地型のことをやっているのでそれが連携すれば、お互いにやれるのではないかなと思っております。

ちょっとメリットのことを言い過ぎましたですけれども、花火というのはGDPを生むと考えておりますが、たまたまですが、今2年目に入りましたけど、日本商工会議所の無限大事業というものをして、全国27のうちの1つに指定されておりまして、今総予算3,000万円で経済効果を高めるような活動を袋井商工会議所はやっており、その一環としてこの三遠南信の花火を通した連携事業というようなものを加えてございます。よろしくお願ひいたします。

**コーディネーター／野外教育研究財団
羽場理事長**

ありがとうございました。

今、日本は観光立国を掲げて、まさに2,000万人になろうとしています。爆買いという言葉も飛び交っていますが、中国の景気と株価

がちょっと下がっていて、心配な面もございますが、観光というのは、庶民の日常社会に直接お金が分配されてきますから、大変ありがたく思うところでございます。

立派な、すばらしい、世界に誇れる文化資産は持っています。ですが、その継承は苦しんでいる、それもいかに地域の文化を守りながら、型を崩さないで、誇りを持ちながらいかに地域の活性化に与えていくか、これは本当に考えどころではないかと思います。

さまざまな皆様のご意見を踏まえてですね、浜松市長には、さまざまな実例報告をしていただきましたが、そういうものを鳥瞰いたしまして、どういう方向に歩んでいったらいいのか、1つご意見を賜りたいと思います。

浜松市 鈴木市長

今日の最後、産業としての観光のお話なども出ましたが、観光などが1番広域連携に適していると思うのです。やはり単体でやると限界がありますが、広域で連携していくにはもってこいの題材でありますし、そういう点でいけば、この地域はたくさんの地域資源があります。

伝統芸能のお祭りも1日じゃないかというのですが、三遠南信全体をとってみると、恐らく季節ごとにありますから、1年通してそうした発信ができるわけです。これはやっぱり連携の生きるところだと思うので、それぞれの資源をお互いに磨き上げるということも大事だと思います。

大河ドラマが来年女城主井伊直虎としてとり上げます。これは引佐の地域です。国侍で、井伊家というのは、もともと滋賀のほうが有名ですが、あれは家康公に取り立てられた井伊直政が活躍して、彦根35万石を授かつて行ったのであり、実は井伊家1,000年の歴史のうちの600年は引佐の地侍です。

井伊直虎という女城主は、崩壊しかけた井伊家を支えて、井伊直政を育て上げて、その

後の井伊家の隆盛を築いたという、まさに中興の祖であります。実はその時代背景というのが、なぜ井伊家が翻弄されたかというと、戦国時代まさに武田、徳川、今川が覇権争いをした地域でありまして、三遠南信全体が舞台になっていると言ってもいいと思います。

これは浜松が舞台ではなくて、実は三遠南信のいろいろなところがかかるわってくるということですので、ぜひこの機にこのドラマを皆さんご活用いただきたいなと思います。

以前にある寺の住職が来まして、引佐、細江、三ヶ日あたりにはいいお寺がたくさんあるけれども、単体ではなかなか人を呼べないということで、何がありますかと聞いたら、方広寺、龍潭寺、摩訶耶寺、大福寺、宝林寺と五つあるということです。これは五山でおもしろいということで、京都五山とか鎌倉五山というくくりがあるので、浜松五山では色気がないものですから、湖の北なので湖北五山という名前をつけまして、湖北五山を巡る旅ということで、最近は観光資源にしているのですけれども、実はこの湖北五山の1つの龍潭寺が直虎公の菩提寺なのです。今大変注目を浴びてまして、龍潭寺だけではなくて、この機に湖北五山全体をPRしていき、大きく花開かせたいと思っています。おそらく皆さんの中にも直虎のドラマにあやかっているいろいろな地域資源というのがあると思いますので、この機会に大いにPRしていただきたいと思います。もしできれば、三遠南信全体でPRしていけば、さらなる効果があるのではないかと思っており、少し紹介させていただきました。

コーディネーター／野外教育研究財団 羽場理事長

ありがとうございました。

今日は皆様のお熱い議論をちょうだいしまして、まとめるのも大変なくらい充実した議論になってまいりました。

冒頭の基調講演が今日は3つございましたけれども、須田先生からはまさに火付け役を最初にやってくださったのかなと思います。私ども現場に立つ者がそれぞれの立場で意見交換をしてきたのですけれども、研究者としてコメントいただけたら大変嬉しく存じます。

先生、お願ひいたします。

コメンテーター／静岡県立大学 須田名誉教授

皆様のご発言を聞いて非常に私も参考になりました。いろいろ私も言いたいことはあるのですが、1つ、後継者の問題は私があちこち行って聞いています。どうしてもこれは食いとめることができないのではないかと私は非常に悲観的になっています。絶対これはなくなっちゃうなあというのは幾つかございます。中部地方も多いのですね。

その場合どうするかというと、何とか他地域の人々を呼び込むのも、もちろんいいのですが、私があちこちで言っているのは、アーカイブをつくっていただくということです。

それはもう、先ほど芸能をやるのは1日だけじゃないかという意見もございましたが、決してそんなことはございません。準備から何から入れれば1年間かかるのです。お酒をつくったり、お供え物をつくったり、祭りの装束をつくったりということがあって、1年間大変な準備をするのです。地域にある江戸時代からうけつぎ文書がありますから、それを洗いざらい出していただいて、それをデジタル文書として残しておく、DVDとして残しておくのです。あまり有名でないようなお祭りもたくさんございますが、そういう地域の村々の、まちもみんな含めてですね、市町村の教育委員会が中心になって音頭をとられてアーカイブズとして、例えば浜松でなくてもいいですが、この辺だったら豊橋ですね、豊橋の市立図書館へ行けばいいとか、愛知大学の郷土研究所へ行けば必ずほとんどの地域のお祭り、芸能がそこでDVDで見られるというよう

な状況をつくってもらいたいです。

今一部は花祭りのことが名古屋大学の方が中心になってつくっています。それによる天文年間、1500年代中頃からあったのだということの文書が出てくるのですね。それまでわからなかったのです。そういうものを文書化して公開して、できれば活字化もしてということで残しておきたいのです。

そうすると何がいいかというと、一旦途切れたものでも、じゃあ再開しようか、再興しようかということができます。つまり、今の若者たちも、昔の人、おじいちゃんがやっていた舞を見ながら舞っているのですね。8ミリビデオを見ながら練習していました。それができるという可能性もございます。すべて洗いざらい全部残して、一部ハイライトは別バージョンで観光客に売り出して、ぜひそれを見てもらいたい。できれば、それ見て、おもしろそうと思っている人は、ぜひやりませんかと。1か月といわず、1年間一緒にいようと、山村留学ではありませんが、芸能留学してもらえば、よりいいのではないかと思うのです。

そういうすべての音楽芸能のアーカイブズ化ということは、非常に大事なことだと思います。それをお願いしておきたいと思います。

『世界遺産時代の村の踊り』という星野紘さんの本がございますが(雄山刊行、2007.9)、何の変哲もない村の踊りだったけれども、これが世界遺産になるのだということで目覚めてほしいという趣旨で書かれた本なのですが、今や日本の地方にこそ日本の真の姿があるといって、外国人観光客が見に来る文化のインバウンド化が今進んでいます。

地方へ行きますと、私も三河地方の田楽などをよく見ました。黒沢田楽ですか、5軒の家でやっているところです。その村の中学校の先生方もみんなやっています。そこへ例えば南山大学のドイツ人の留学生がやって来て一

緒に舞を舞うと、こういうのはおもしろいと言つては来て、来年はもっとほかの友達も連れて来るぞということを言つていました。地方の中に日本の真の姿を見ていこうということで、それでまたインターネット発信して、たくさん見に来て、ちょうど野沢温泉村のサルの温泉見物ではありませんが、たくさん来過ぎても困るかもしれませんけれども、できるだけ多くの人に見てもらって、興味持つてもらって、さらに発信してもらえば、そんなものはおもしろいのか、芸能がそんなにいいのかというように、村の人自身も再発見という効果を生むのではないかと私は常々思っています。

今日は皆さん、ありがとうございました。

**コーディネーター／野外教育研究財団
羽場理事長**

ありがとうございました。

皆様のご協力をいただきまして、すばらしい熱い意見が交わされました。内容も豊かでしたし、また連携の力を必要だということを改めて言葉の端々から感じる皆さんのセッションでございました。

このあと全体会がございまして、ここでの意見をまとめていくことになりますので、若干私のつたないまとめ方で振り返ってみたいと思います。

まず最初に、浜松の今のすばらしい取り組み、特に合併したことによって、とても豊かな地域をつくることができたということ。それから、それを実現していくための幾つかの施策をご紹介いただきました。

それを出発点としまして、パネリストの皆様の現状をご報告いただいたり、ご意見を伺いました。名だたる無形民俗文化財は後継者で悩んでいるということを幾つかのご発表で再確認させていただいたわけです。

それで1つ明るい材料は、人口減少を逆手に取れと、あるいは後継者難を逆手に取れと、

こういうお考えが示されたのかなと思うわけでございます。

後継が厳しければ、地域間連携、そして合併したことのメリットによるさらにやや広めの連携、さらに三遠南信、SENAの範囲でそういったことに後継者の育成のための連絡を取り合って芸能留学などもどうだというようなご意見もございました。

そしてまた、そういったものがよいと識者やマニアックな方が知っているだけではもったいないのではないかということで、それを一同に鳥瞰できるようなものが必要なのではないかということでした。例えばカレンダーをつくるとかですね、ホームページで連絡を取り合うとかですね、何らかのことが必要なのかなというような内容を予感するご意見がございました。

須田先生からアーカイブスで記録保存をきちんとやっていきましょうということ、各自治体は博物館や映像や、あるいは研究報告書という形でしっかり撮っていてくださいますが、それをさらに観光につなげるような形でやっていくことがよろしいのではないかということでございました。

それからインバウンド、今の海外からのお客様も大事にしていったり、それから今、信濃はご存じのとおり真田丸で視聴率も何とか20%台近いところを維持いたしておりまして、おかげさまで好調に維持しておりますが、来年はこれが女城主直虎ということで引き続いてこの中部、東海地方に光が当たります。これを生かしていくということが絶対に必要であろうと、地域全体でこのことを大事にしていくことでございます。

フィルムコミッショングとかですね、そういったテレビ、ドラマ、小説、こういったものを誘致していくという運動を各地でやられておられるかと思いますが、これはインパクトがかなり強いわけでございまして、これを一生懸命取り組んでいくこと。特にまた SENA

のほうも指導力を發揮していただくということも大事なのではないかと思うところでございます。

いずれにしても、それは SENA を中心とした連携力、ここに培った皆様の歴史、そしてみんなで一緒にやろうという熱い気持ち、これが形になっていくと期待されるわけでございます。

当面の1つの課題として、日本遺産というご提案がございました。大変わかりやすい目標であろうかと思います。南アルプスの日本ジオパークや富士山のユネスコの世界文化遺産のほうは登録になりましたけれども、さらに数ある民族文化財を日本遺産、そしてやがては世界文化遺産を目指していくであろうと思うわけでございますが、まずは日本遺産を確実にものにしていくという目標が見えてきたのではないかと思うところでございます。

短い時間の中で皆様の貴重なご意見をまとめて切れないところはございますが、そんなことで報告をさせていただきたいと思います。浜松市長さん、パネリストの方々いかがでしょうか。

愛知大学総合郷土研究所 平川研究員

申し訳ございません、1つ言い忘れておりました。今のまとめの中のジオパークの話が出たと思いますが、東三河でもジオパーク構想の動きがあります。現在準会員になりまして、「東三河ジオパーク」認定にむけた申請の準備が進められています。

コーディネーター／野外教育研究財団

羽場理事長

すばらしい。

愛知大学総合郷土研究所 平川研究員

これで順調にいけば、南アルプス（中央構造線エリア）ジオパークとつながります。あと残すは、遠州だけなのです。中央構造線が

通っていますので、遠州をなくしてはこのジオパーク構想も語れない地域であるわけです。

そういう意味で三遠南信全域を視野に入れたジオパーク構想を進めていくことも、日本遺産と同様に考えていただければと思います。ジオパーク構想は、自然環境の保全、歴史・文化の教育、観光、産業などと結びつけて活用することが可能でこれから三遠南信の地域づくり活動などに寄与すると思いますので、ぜひ取り組んでいただければと思います。

コーディネーター／野外教育研究財団

羽場理事長

ありがとうございました。

報告会の発表の時間はごく限られておりますので、すべてを言い尽くせるかどうか、分かりませんがなるべく網羅できるようにしたいと思います。

はい。それでは本当にたない司会でご迷惑をおかけしましたけれども、パネリストの皆様のすばらしい発表、そして、それを会場の皆様に支えていただきまして、つつがなく会を進行させていただきました。皆様に感謝を申し上げまして、この風土分科会を閉じさせていただきたいと思います。ありがとうございました。